

高校生の「建築甲子園・兵庫 2020」 実施・応募要項

主催 公益社団法人 兵庫県建築士会

公益社団法人日本建築士会連合会主催「建築甲子園（第11回大会）」は新型コロナウイルスの感染防止のため中止を余儀なくされました。しかし、この設計競技に参加することを目標にして勉学研鑽を積んできた高校生のみなさんのご要望ご期待にお応えするため、兵庫県建築士会では、独自に兵庫県大会「建築甲子園・兵庫 2020」として実施することにしました。

以下はその応募要項です。（本年3月に公開された連合会の「建築甲子園 実施・応募要項」をもとに兵庫県大会として追記・再編集したものです。）ふるってご応募してください。

1. 課題

本年度公表された日本建築士会連合会主催の課題『地域のくらしーこれからの地区センター』（その後中止となりました。）と同じとします。別紙の連合会の片山審査委員長の課題趣旨文をご参照ください。興味をもつコミュニティ、その核となる地区センターを自由に描いてください。

2. 応募対象者

兵庫県下の、建築教育課程のある工業高校、高等学校、工業高等専門学校（ただし、3年生までとする）を対象とし、教員が監督、同校在生を選手としたチーム編成での応募とします。

3. 提案内容と表現方法

提案の内容や表現方法は、応募者にお任せします。以下を参考に、提案したい内容により自由に考えて、創意工夫ある作品をご提案ください。

1) 場所・敷地

自由に設定してください。現実に地区に存在している「地区センター」をモデルにしてもかまいません。また地区の人口・世帯の動向などの現状を、図表などを用いて説明もかまいません。

2) 地区センターと立地する地区（場）との関係

提案された地区センターを含む周辺の景観や環境を図面で表現してください。

3) 地区センターの建築設計

地区センターの構造規模、所要室などは目的、提案趣旨などに応じて自由に設定してください。

以下の表現方法・図面はあくまで参考です。提案内容に応じて適切な表現を工夫してください。

●立地する地区、敷地周辺状況の説明・表現について

図面による表現：周辺説明図（たとえば土地利用現況図、景観特徴図、写真など。）

文章による表現：たとえば、地区の歴史や、コミュニティの状況、問題点など。

●提案する地区センターに関する説明・表現について

建築概要：構造・規模 面積表

工事要旨：新築・増改築など

図面：配置図（周辺状況を含む）・平面図・立面図・断面図、パースやスケッチなど。

提案要旨：たとえば、機能的な特徴、周辺環境をふまえたデザイン上の特徴など。

4. 応募作品の提出について

1) 提出作品

- ・作品の提出は、各校で選抜してください。
- ・応募点数は、1校5点以内とします。
- ・作品は、スチレンボード等くせの少ない台紙を使用し、最終的にA1判横使い（A2判2枚またはA3判4枚の貼り合わせでも可）パネル1枚になるように取りまとめてください。ただし、額装は不要です。また、表面には、学校名、応募者名は記載しないでください。

2) 添付資料

作品には以下の資料を添えてください。

- ・応募申込書（A4版の用紙）※兵庫県建築士会のホームページよりダウンロードしてください。

3) 提出期限

- ・2020年11月24日(火)
- ・郵送の場合は当日の消印有効とします。
- ・持参する場合は、土・日・祝日を除く午前10時～午後5時までとします。

4) 提出先

(公社)兵庫県建築士会 事務局（問い合わせ先 を参照）

5) 提出方法

応募作品と添付資料を郵送もしくは持参してください。

6) 質疑応答

質疑応答は行いません。

5. 審査

図面審査と、状況により公開審査会を開催する予定です（応募件数が多い場合、ベスト8を図面審査で選出します。）。公開審査会では、応募者によるプレゼンテーションと質疑応答をもとに、審査委員会がテーマの理解度、独創性、具体性、表現力等から審査し、賞を決定します。

なお、開催にあたっては、新型コロナウイルス対策を講じ、感染防止に十分配慮します。ただ今後感染状況がさらに悪化した場合は、図面審査のみとします。

●公開審査会・表彰式の予定

日時：2020年12月12日（土） 13:20 から 17:00（開場 13:00）

会場：兵庫県学校厚生会館 2階大会議室

神戸市中央区北長狭通 4-7-34

●審査員

審査委員長 末包伸吾（神戸大学教授）

審査員 長濱伸貴（神戸芸術工科大学教授）

森崎輝行（日本建築士会連合会まちづくり委員長）

柏本 保（兵庫県建築士事務所協会会長）

宮宅勇二（兵庫県建築士会会長）

6. 賞および表彰式、審査結果の公表

1) 入賞および副賞

最優秀賞 1点 副賞 5万円

優秀賞 1点 副賞 3万円

奨励賞 数点 副賞 記念品

各賞に応じて賞状を選手全員に贈り、副賞を受賞チームへ贈ります。

2) 表彰式と結果公表

公開審査会終了後、同会場で表彰式を行います。審査結果については、入賞作品集を兵庫県建築士会ホームページに公表する予定です。

7. 応募作品の返却

応募作品は返却します。(但し、必要な場合はコピー等を残してください。)

8. 著作権

入賞作品の著作権は入賞者に帰属しますが、本会が競技に関する公表(ホームページ、出版を含む)をする場合は、その権利を無償にて使用できるものとします。

9. お問い合わせ先

公益社団法人兵庫県建築士会 事務局

〒650-0011

神戸市中央区下山手通4丁目6-11 エクセル山手2階

T E L : 078-327-0885 F A X : 078-327-0887

e-mail : info2908@hyogo-aba.or.jp

U R L : <http://www.hyogo-aba.or.jp>

日本建築士会連合会 2020 年第 11 回
高校生の「建築甲子園」
テーマ：「地域のくらしーこれからの地区センター」

(連合会主催※2020 年度第 11 回高校生の建築甲子園は中止になりました)

審査委員長 片山 和俊 (建築家、東京藝術大学美術学部建築科名誉教授)

高校生による建築甲子園も 10 年経ち、いくつかの改善を試みた。第 9 回にサブテーマと映像表現を加え、昨年度サブテーマを「これからの地区センター」とした。

地区センターとか公民館は聞き慣れた施設だと思われる。地区センターは、地域コミュニティの核となることを目指して、行政によって設置されたもの。管理運営は、地域で組織する運営委員会に委託されている。公民館は住民のために社会教育を目的とし設けられてきたもので、地区センターより歴史は古そう。

地区センターは、もともとは従来からの町内会や自治会が担っていたわけだが、人口流入による増加や激しい人口移動、産業の高度化や立地の変化、交通体系の整備などに伴って、従来の地域交流機能を賄いきれなくなり、その補完的な施設として設けられたものと考えられる。個人へ分化したコミュニティを対象として地区センターが都会に多いのに対して、旧来からの世帯、家族、土地を媒介とした繋がりを基本とした公民館は地方に多い。が、ここでは地域の核となる施設として包括的に捉え、地区センターとしたい。

すでに始ってる日本の縮小社会への移行は、人口減少や空家の増加とともにコミュニティ自体にも変化をもたらす。要らない公共施設が増え、統廃合や機能変化が既に始まっている。社会の拡大時は従来の地区センターのように、同じような施設を増設すればよさそうだが、縮小時は地域の事情に寄り添う固有なあり方が求められるに違いない。普通では残らない。

そこで君たちに考えて貰いたい。君たちが興味をもつコミュニティ、その核となる地区センターを。現況や従来型にとらわれずに自由に描いて貰いたい。様々な機能構成や思いも寄らない施設との併設もあるだろう。それもよい。新築増築、建替え、リノベーション、コンバージョンなど色々なケースがあつてよい。

そして最後に、建築の専門家になることを目指している君たちに、原点に帰って設計で勝負して貰いたいと昨年度注文をつけた。地域のくらしというテーマは、社会的課題がからみソフトの比重が高くなることから、自分たちの最も得意な分野を生かして、しっかりデザインして欲しいとした。けれども昨年度、注文を誤解しているような傾向立地する環境との応答が弱い地区センターの提案が多く見られた。“カッコいい建築”を目指しても、地域の環境との応答を忘れては元も子もない。もう一度地域のくらしと周辺環境に目を向けて、そこから計画を組上げて欲しい。君たちなら自慢の町・環境をどう生かすか、そのための核となる地区センターの提案を期待して待っている。